

橋梁の維持管理に関する 新技術フォーラム



～橋梁の健康寿命を延ばし、脱炭素社会の構築に寄与する～

近年、あらゆる分野にて脱炭素社会の構築に向けた検討が進められています。社会資本の根幹をなすコンクリートは、その主要成分であるセメントの製造時に、二酸化炭素を多く排出いたします。そのコンクリートを「主要な材料」とする「建設分野」でカーボンニュートラルへの取り組みは、喫緊の課題と言えます。

一方、橋梁の主要構造のひとつである鋼構造形式の橋梁においては、塗替えによる塗膜の長寿命化が進められています。しかし、塗膜に含まれている有害物質(鉛・六価クロム・PCB)の除去が課題とされており、その解決策としてのブラスト工法が注目を集めています。

適切なコンクリート構造物の補修、鋼構造物の塗替えで構造物の健康寿命を延ばすことによって、二酸化炭素排出量の多い「撤去・新設工事」を減らすことができます。すなわち、橋梁の健康寿命を延ばすことは、脱炭素社会の構築に寄与することに、繋がると考えられます。

この度のフォーラムでは、「橋梁の健康寿命を延ばし、脱炭素社会の構築に寄与する」をテーマに掲げ、橋梁の健康寿命を延ばすための最新のコンクリート補修技術及び塗膜の下地処理技術を紹介いたします。

我が国の橋梁は確実に高齢化が進み、直ちに対策が必要なものも少なくありません。また、事後保全から予防保全への移行も確実に進めなければなりません。それらに対して「適切なコンクリート補修工事及び鋼構造物の塗替え」を行うことは維持管理に関わる技術者の責務です。

本フォーラムが、橋梁の維持管理業務に携わる技術者の皆様の、光明になる内容を提供できると確信しています。

※本プログラムは土木学会認定CPDプログラムです。

開催日時

2023 **12/1** **金**

13:00～17:00 (※開場12:30)

会場

**広島国際会議場
ダリア**

広島県広島市中区中島町1-5

<https://www.pcf.city.hiroshima.jp/icch/>

定員

360名

※定員になり次第締め切らせていただきます。

参加無料

お申し込みは
こちらから
お願いします



<https://www.j-cma.jp/>



広島県コンクリートメンテナンス協会

12月1日(金) 開場12:30

開 会 趣旨説明 徳納 剛
(コンクリートメンテナンス協会 会長) 13:00~13:05

第1部 江良 和徳氏
(コンクリートメンテナンス協会 技術委員長) 13:05~14:00

「コンクリート構造物の健康寿命を延ばすための維持管理の考え方」

休 憩 14:00~14:10

第2部 江良 和徳氏
(コンクリートメンテナンス協会 技術委員長) 14:10~15:00

「コンクリート構造物の健康寿命を延ばすための亜硝酸リチウムの活用」

第3部 田村 悟士氏
(アイゾールテクニカ 専務取締役 技術統括) 15:00~15:30

「小規模橋梁に対する床版防水工の動向と開発事例」

休 憩 15:30~15:40

第4部 (1) 大塚刷毛製造 15:40~17:00

「インフラ整備の現状と問題」

第4部 (2) 小寺 健史氏 (プラスト施工技術協会 会長)

「インフラメンテナンスにおける鋼橋の課題素地調整の重要性」

第4部 (3) 吉原 慎二氏 (吉原鉄工所 代表取締役)

「素地調整程度1種【マルチメディア・ブラスト工法®】に付いてのご紹介」

※講演者、講演題目は11月1日現在のものであり、変更される場合があります。ご了承ください。

参加申込 参加費/無料 <https://www.j-cma.jp/>

■申込先/(一社)コンクリートメンテナンス協会のホームページより該当のフォーラム会場へお申込下さい。

※定員になり次第締め切らせていただきますのでご了承ください。



えら かずのり

江良 和徳氏

所属学会/土木学会、日本材料学会、日本コンクリート工学会、プレストレストコンクリート工学会

備 考/平成18年度より京都大学大学院の宮川豊章教授ご指導の下でリチウムイオン内部圧入工をテーマとした研究を行い、平成22年3月に博士(工学)の学位を取得

賞 /平成21年度 日本材料学会 論文賞
平成22年度 日本材料学会 技術賞

所 属/コンクリートメンテナンス協会 技術委員長

業務内容/コンクリート構造物の調査、診断、補修、補強業務
亜硝酸リチウム関連技術に関する研究開発

資 格/博士(工学)、技術士(総合技術監理部門、建設部門)
コンクリート診断士、コンクリート構造診断士、1級土木施工管理技士、プレストレストコンクリート技士、コンクリート技士、保育士、ほか



たむら さとし

田村 悟士氏

著 書/「サステナブル社会基盤構造物」(森北出版・共著)

主な経歴/●(一社)資源・素材学会 論文集「建設原材料」編集幹事
●関西道路研究会 道路橋調査研究委員会
橋梁の余寿命の推定および評価手法に関する調査研究小委員会 幹事
●近畿大学理工学部 非常勤講師

所 属/㈱アイゾールテクニカ
専務取締役 技術統括

業務内容/環境負荷の少ない次世代型コンクリート補修材料の開発、インフラ構造物の補修工事に対する技術コンサルティング、各種講演

資 格/博士(工学)
所属学会/(公社)土木学会、(公社)日本コンクリート工学会、(一社)資源・素材学会

著 書/「サステナブル社会基盤構造物」(森北出版・共著)



こてら たけし

小寺 健史氏

と対策、共同執筆者(公益財団法人土木学会)、

2022年同志と一緒に「(一社)PCB処理工法協議会」を発足、
2023年同志と一緒に「(一社)AI(アイ)ラップ工法協会」を発足

所属/(一社)プラスト施工技術研究会
経歴/1976年大阪府松原市にて生まれる(実家はプラストや溶射を営む家庭)、1995年高校3年生の時に、阪神大震災が起こる、1998年ようやく学校を卒業し、家業に入る、2010年兄と共同で家業を継ぐ、2014年同志と一緒に「プラスト施工技術研究会」を発足、2015年同志と一緒に「塗膜剥離・素地調整勉強会」を発足、2018年防食ソリューション共同執筆者(橋梁通信社)、2019年大気環境における鋼構造物の防食性能回復の課題

と対策、共同執筆者(公益財団法人土木学会)、

2022年同志と一緒に「(一社)PCB処理工法協議会」を発足、

2023年同志と一緒に「(一社)AI(アイ)ラップ工法協会」を発足

と対策、共同執筆者(公益財団法人土木学会)、

2022年同志と一緒に「(一社)PCB処理工法協議会」を発足、

2023年同志と一緒に「(一社)AI(アイ)ラップ工法協会」を発足



よしはら しんじ

吉原 慎二氏

を設計・製造する、2015年プラスト施工技術研究会 発足し、理事として活動を始める

所属/㈱吉原鉄工所 代表取締役
プラスト施工技術研究会理事

所属学会/プラスト施工技術研究会
経 歴/1992年広島修道大学卒業、1993年長沼商事(株)入社、1995年㈱吉原鉄工所入社、

※㈱吉原鉄工所は、設立(1968年)当初より、プラスト機的设计・製造を始める。

2004年代表取締役社長就任、2013年橋梁補修工事向けの、プラスト装置

を設計・製造する、2015年プラスト施工技術研究会 発足し、理事として活動を始める

を設計・製造する、2015年プラスト施工技術研究会 発足し、理事として活動を始める